望洋荘便り

第５０号
平成２０年
１月発行

迎春

謹んで新春のおよろこびを申し上げます

平成二十年　元旦

高齢者の医療とは

社会福祉法人りんさく福祉会
理事長　須田　滉

ある年齢を越してから、急に歳を聞かれて、返答に戸惑った経験はありませんか。ローマの哲学者セネカは、「年齢は暦のうえで計るものではなく、自分で作るもの…男は自分で感じたまま、女は見たままの年齢がいい」と説き、「暦のうえの年齢の意識はせっかくの自己暗示をさますことであり、若々しく回転していた暮らしのリズムを破壊することになろう」と述べています。歳を重ねてきた中 高年者に意味もなく年齢を聞くのは遠慮すべきですね。

ところで、加齢、すなわち年をとり老人になってゆくことは複雑な変化の連続であります。これは単に時の経過だけのものではなく、また発達の反対でもありません。機能と形態の変化があり、身体の器官や機能は損なわれ、心理的障害、運動や知能、さらに社会的地位、信念、態度、個人的特質も変わりますが、個人差の大である点も注目されるかと思います。

いわゆる老化現象として一般的には、予備力の減少、適応能力の減退、抵抗力の低下、回復力の遅延、等々があげられます。しかし医学上の最終目的としては、適切な環境下にもっとも理想的な健康状態で長生きすることで、年はとってもいたずらに年とらず、やがてくる死は避け得ずともこれを恐れず、やすらかに自然死する」ことにあるでしょう。

老人の医療においても、老人の特性である次の事柄に留意する必要があると思われます。①単一疾患に罹患するよりは、むしろ多くの疾患を合併することが多い。②比較的慢性の経過をとることが多い。しかもおおくは、その原因が必ずしも明らかではなく、生活に密接に関連しているという事。③その発生経過、予後にかけて典型的でない場合が多い。④治療に対する反応性が特異的なことがある事です。

したがって、一般的老化における機能低下等は、加齢に伴う生理的枠内のものであれば、当然これを病的とはみません。しかし、加齢に伴う年齢に対応する生理的変化の限界をこえ、あるいは加齢に伴い招来されたいわゆる続発症、合併症などの病気の範疇に入るようになると、これは老年病とよぶことになるでしょう。従来、老人の医療というと、とかく老人病への対応と受けとられがちです。しかし、医療の理念からいって、老化した人々に対し若い人と差異なく、あるいは高齢者の持ち味をいかして、生きがいをもって生活していける社会を考えて対応する事こそ、極めて重要なことと考えていいでしょう。

つまり高齢者福祉社会での医学ですが、もう一歩進んで人間最大の欲望である『永久の若さ』をもたらすこと、すなわち、老年期を長引かせるのでなく、若々しい時代を延長させる」ことであります。人の寿命を可能な限り延長させ、活力を十分保持し得る条件化にもっとも合理的環境を創り、つまり健やかに老い、安らかに自然死し得る未来の老人像への道と、社会、文化、経済などの発展に伴う新しい社会性疾患への対応をも考える必要があるのでしょう。

ここまでくると、加齢の医学を超えて、高齢者の医療は老人社会学、老人心理学などがからみあい、総合的、有機的に検討さるべき課題と考えます。

参考文献：老人の医療　中村　隆著　クリニアン（通巻二七四号）

平成二十年初日の出

平成二十年元旦、初日の出です。写真は望洋荘薄磯ユニットより撮影致しました。上の写真が午前六時〇九分に撮影。下の写真が同じく一八分に撮影。たった九分で太陽が昇って行くのが分かります。本当に素敵な初日の出でした。

『初顔合わせ』元旦

元旦。新年のはじまりに、入居者様全員が塩屋岬広場（多目的ホール）に集まり、初顔合わせを行いました。初めに施設を代表して、濱尾事務長が新年のごあいさつを行い、全員で新年を祝いました。

『初詣』八剣神社

一月二日午前と午後に分け、豊間ユニットの入居者様六名が、高久の八剣神社へ「初詣」に出掛けました。「来年もまた元気に初詣出来る様に」と今年一年の無病息災を神様にお願いしたと話されていました。天候にも恵まれ良い初詣でした。

『書初め』永崎ユニット

一月二日永崎ユニットでは、「書初め」を行いました。新年の目標や、正月にまつわる言葉などを書かれていました。現在永崎ユニットに展示しておりますので来荘の際は、ご覧ください。

「新年会」勿来・豊間ユニット

一月六日(日)午後十二時より、勿来ユニットで、一月十九日（土）午後十二時より、豊間ユニットで、それぞれ入居者様・ご家族様・職員の新年会を開催致しました。お忙しい中、朝から料理作りに協力いただき有難うございました。新年会でも多くのご家族様が参加くださいました。ご家族様から、この様な会があると、施設の職員や他のご家族様との交流が図れてとても良かったという感想を頂きました。

勿来ユニット新年会

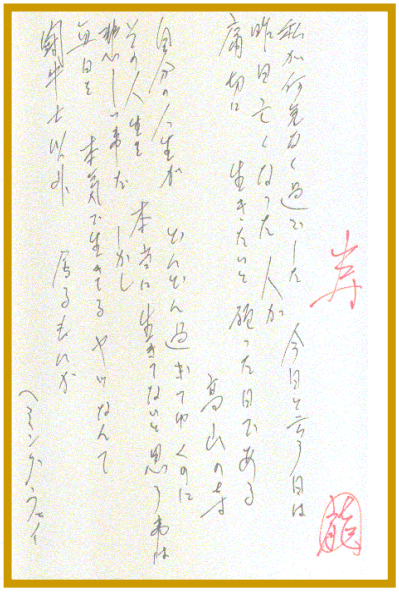
豊間ユニット新年会

「噺家さんからの年賀状」其の・

いわき寄席にご出演された落語家さんから、毎年噺家さんらしい賀状をいただいています。その中からいくつかご紹介させて頂きます。

また、度々いわき寄席にお越しくださった、柳亭痴楽師匠が体調を崩され、休養中には便りも無く心配していた所に、久しぶりの賀状をいただき安心した所です。早い復帰を願っています。

三遊亭 圓龍 師匠



寿

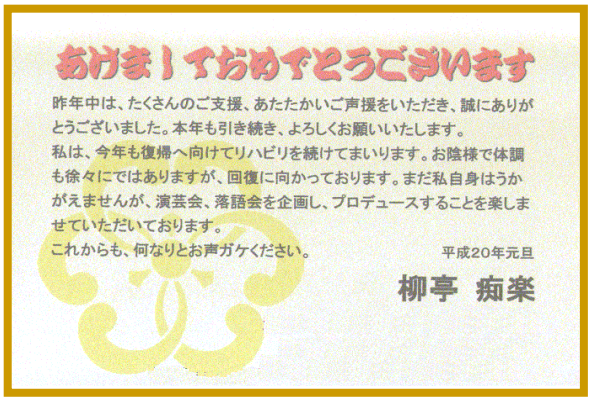
私が何気なく過ごした 今日という日は
昨日亡くなった人が
痛切に 生きたいと 願った日である
高山の寺

自分の人生が どんどん過ぎてゆくのに
その人生を 本当に生きてないと思う事は
悲しい事だ しかし
毎日を 本気で生きてる ヤツなんて
闘牛士以外 居るもんか

ヘミングウェイ

龍

柳亭 痴楽 師匠



あけましておめでとうございます

昨年中は、たくさんのご支援、あたたかいご声援をいただき、誠にありがとうございました。本年も引き続き、よろしくお願いいたします。
私は、今年も復帰へ向けてリハビリを続けてまいります。お陰様で体調も徐々にではありますが、回復に向かっております。まだ私自身はうかがえませんが、演芸会、落語会を企画し、プロデュースすることを楽しませていただいております。
これからも、何なりとお声ガケください。

平成20年元旦

柳亭 痴楽

あけましておめでとうございます

昨年中は、たくさんのご支援、あたたかいご声援をいただき、誠にありがとうございました。本年も引き続き、よろしくお願いいたします。
私は、今年も復帰に向けてリハビリを続けてまいります。お蔭様で体調も徐々にではありますが回復に向かっております。まだ私自身はうかがえませんが、演芸会、落語会を企画し、プロデュースすることを楽しませていただいております。
これからも、何なりとお声ガケください。

立川 ぜん馬 師匠

賀 正

今年もよろしくお願いします。

入船亭 扇遊 師匠

賀 春

明けまして
御目出度う
ございます

むかし泉 今松 師匠

あけましておめでとうございます

お国挙げての偽りに比べ
まずはお上が範を垂れ

新年を迎えて「新年の抱負」

今年の目標
―いつも笑顔で過ごしましょう―

介護老人福祉施設　望洋荘
施設長　須田　美保子

新年　おめでとうございます。

年が明けると、明るい声で「あけましておめでとう」と挨拶を交わし、新年を祝います。「誰にでも出来て」「生きていくのにとても必要なもの」「それは何？」デパートで目にした広告です。答えは『笑顔』でした。私も含めて皆様もおもわず共感の笑みがこぼれたことでしょう。

「笑う門には福来る」これは、いつもニコニコしていて笑いが満ちている人には自然に幸福がめぐってくる、と教えている諺(ことわざ)です。常に物事を明るく受け止め、笑いを忘れないことで、少しずつしあわせが歩み寄ってくる元になるのでしょう。

明るく笑い声の耐えない人は、みんなの心を和ませるので、周囲の人々は引きつけられます。そうすれば、あらゆる人間関係がうまくいくようになり、コミュニケーションも好転します。

入居者様は、いつも皆さんの明るい挨拶と素敵な笑顔を待っているのです。

今年の目標

―今日一日、明日も、そして明後日も、毎日、挨拶に笑顔を添えましょう―

二月の行事予定

二月三日（木）午後二時三〇分～
「豆まき」施設内全館
二月二八日（木）午前一〇時～
「八ーモニカ演奏」キャプテン船水

【二月のお誕生会予定】
二月一日（木）
薄磯　小野　マサ様（九二歳）誕生会
二月九日（土）
勿来　根本サタヨ様（八九歳）誕生会
二月十日（日）
四倉　中村　照子様（八六歳）誕生会
二月一八日（月）
四倉　坂本　まつ様（八五歳）誕生会
二月二二日（金）
勿来　太田マツヨ様（九〇歳）誕生会
二月二七日（水）
勿来　佐川　芳子様（八七歳）誕生会
二月二八日（木）
四倉　賀澤　英子様（八五歳）誕生会

編集後記
『望　洋　荘』便り
平成二十年一月三十一日発行
発行所　いわき市
平豊間字合磯三十九番地
社会福祉法人　りんさく福祉会
介護老人福祉施設　望洋荘
電　話　（０２４６）５５－７３７３
ＦＡＸ　（０２４６）５５－７２５５